



WEB会議プログラム
 開催日 2021・10・21 (木)
 報告内容
 ① 宮城県立こども病院活動報告
 報告者 VC 大町千鶴
 ② 静岡県立こども病院活動報告
 報告者 VC 藪崎和美

参加施設…
 ① 宮城県立こども病院
 ② 埼玉県立小児医療センター
 ③ 神奈川県立こども医療センター、
 ④ 静岡県立こども病院
 ⑤ 大阪府立母子総合医療センター
 ⑥ 福岡市立こども病院
 ⑦ 沖縄県立南部医療センターこども医療センター

第9号 2021/11/25 発行
 事務局 東京都新宿区若松町 10-1-302
 ☎080-5527-4379 代表 坂上和子

“こども病院ボランボラコの会”として初のweb 会議を開催

宮城県立こども病院

VC 大町 千鶴



宮城県立こども病院報告概要
 VC 常勤1名 2003年～
 病床数 241床
 Vol 登録者数約 200名

活動内容：案内（外来や入退院センター）こども図書館 外来プレイルーム おもちゃの整理整頓 車椅子点検・清掃 花壇の手入れ スネークギャラリーの作品展示 移動図書 お話し会 玩具修理 ソーイング広報：年2回 イベントアート：装飾・行事カード作成 学習支援（高校生以上対象）

当施設のボランテニア活動は、病院の開設と同時に2003年11月から始まりました。病院の敷地内にボランテニアハウスがあり活動の拠点となっています。ボランテニア活動では約200名のボランテニアが、一日3時間程度（9時～12時・13時～16時）の活動をしていました。しかし、新型コロナウイルス感染症によって2020年3月4日よりすべての活動を休止せざるを得なくなりました。こども病院でも外来や手術を縮小するなどして、来院者数の削減に努めました。入院・外来患者の付き添いや面会者の制限、外泊中止など厳しい制限が設けられました。昨年は宮城の緊急事態宣言が解除になった6・7月の2か月弱、ボランテニア活動を再開することができました。ボランテニア活動休止後間もなく、病院の投書箱にボランテニアさんに対する感謝と再開を希望する投書がありました。この文面を直接ボランテニアさんに届けたいと思い、『ボランテニア通信』を作成して郵送しました。2003年5月から現在まで9回発行しました。コロナ禍でも開催できたイベントの時の患者さんの様子や、病院からのお知らせなどを掲載しています。宮城の感染アラートを参考に陽性者の少ない時期には、患者さんと直接接触がないスネークギャラリーと、オンラインによる学習支援は活動を継続しました。病院職員のコロナワクチンの接種は今年の3月より開始されました。ボランテニアハウスは6月から8月まで地域貢献を兼ねて一般市民のワクチン接種会場となりました。登録ボランテニアの方にはこども病院で予約ができることを郵送で案内し、希望者にはワクチン接種を受けてもらいました。県内のワクチン接種率の向上と陽性者数の減少を鑑みて、2回のワクチン接種完了を条件に10月から緑のボランテニアの活動を再開しました。そして11月中旬から、案内・こども図書館・車椅子点検のボランテニアを、人数を縮小して再開することにしました。やっとここまでできたという感じです。第6波の到来を恐れつつも、感染対策を十分にを行い、これから少しずつ活動を拡大していくつもりです。

静岡県立こども病院

VC 藪崎 和美



静岡県立こども病院報告概要
 VC 非常勤1名 2010年～
 Vol 登録者数 97
 病床数 279床

活動内容 外来（こどもと遊びや家族支援）園芸 イベント 図書 病棟 散髪 作業 タップングタッチ 装飾

当院は令和2年2月下旬から新型コロナウイルス対応が始まり、患者家族の入館制限・面会制限、院外の方の訪問停止、ボランテニア活動もすべて停止となりました。ボランテニアが飾っていた玩具や人形も感染対策からすべて撤去しました。6月に患者と接触のない活動のみ感染対策を講じた上で可能となりました。この間ボランテニアにはメールや電話で病院の様子を伝えていましたが、毎回「まだ活動は中止です」と変化のない内容で無力感を感じていました。やっと訪問可の連絡ができた時も、未だ感染の不安がある中、わざわざ病院に来てくださるか心配がありました。また来られて嬉しいです」と言われる方が多く、資材不足の折の簡易エプロン作りの依頼には病棟ボラや学生ボラも参加し、多数のエプロンを作成していただき助かりました。

その後、活動可否は県が発表する警戒レベルに応じて決まると基準が改訂されました。患者と接触のある活動は再開されなまま年度末となりましたが、登録継続確認では「継続します。活動できる状況になることを待っています」というお返事が多く有難かったです。現在はワクチン完了者なら病棟訪問が可となり、人数は少ないですが病棟内の活動を始めています。この2年新規の申し込み者は激減し、活動停止中に事情で退会されたボランテニアもいます。今後は会員の募集、活動内容の見直し等が必要と感じています。また、県外からの訪問は停止中でオンライン訪問のみ実施しています。県外ボランテニアの実訪問受入についても慎重に検討していく予定です。

この度はコロナ禍におけるボランテニア活動について2施設に報告していただきました。7施設のボランテニアコーディネーターにご参加いただきました。最初は、宮城県立こども病院の大町さんから、病院の概要を含め、この1年半のコロナ禍でのボランテニア活動の経緯などご紹介がありました。ボランテニアの位置づけが病院体系に確立されている印象が強い宮城ですが、感染状況に合わせて患者ご家族はもちろんボランテニアの安全を最優先した対応が柔軟にとらわれているように感じました。病院とボランテニア間の信頼関係をどう構築・発展させていくか、さらに深い信頼関係を維持しながらどうコロナ禍を乗り越えるか、宮城のボランテニアのみならずからも、もっとお話しをうかがいたいと思いました。

静岡の藪崎さんからは、コロナ禍の不安定な活動に伴う課題のほかに、ボランテニアの高齢化、モチベーションの維持などコロナ前から度々挙げられていた内容があらためて提示され、今、これらの課題がコロナが絡むことよってさらに複雑に解決策が見いだせなくなっていることが浮き彫りになりました。それぞれの活動紹介資料からは、コロナ禍まさに暗中模索するボランテニアコーディネーターの奮闘ぶりが伝わってきました。そしてそれは、すべての病院ボランテニアコーディネーターに関わっている方々に通ずることです。今回、大町さん藪崎さんともに、ボランテニアコーディネーターとして「うれしかったエピソード」を教えてくださいました。ボランテニアさんとの再会を待っているというご家族からのお手紙、活動再開後の「来られてうれしい」というボラさんからの言葉、積極的に楽しんでるボラさんの姿など、このような状況でも、私たちの背中を押してくれることが日々舞い込んできます。そのことに感謝しながら、あきらめずに、今は一つ一つ大切に丁寧に行なうしかない、今回の研修後、自分に言い聞かせました。（埼玉県立小児医療センター 富澤真麻）